

始まっています！ 「地中熱」利用

小千谷に適した再生可能エネルギー
のひとつとして展開が期待される
「地中熱」利用が加速中！

地中熱モニター
ご覧ください！

【市議会の動き】

○第2回定例会 令和8年度補正予算 人事案件 等

TOPIC #1

地中熱利用システム最適利用方策調査業務委託料

議案：議案第53号 令和8年度 小千谷市一般会計補正予算（第2号）

【歳出】 4款 衛生費

環境保全対策経費 ・ 地中熱利用システム最適利用方策調査業務委託料 3740万円

【歳入】 14款 国庫支出金

エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費 3740万円（補助率：10/10）

【説明】 令和8年度一般会計補正予算（第2号）において、環境保全対策経費として「地中熱利用システム最適利用方策調査業務委託料」3740万円を計上しました。これは、消雪井戸など既存の地域資源を活用し、公共施設をはじめ、将来的には民間施設や個人住宅での地中熱利用の可能性を調査するものです。

地中熱は、地下の温度が年間を通して比較的安定している性質を利用する再生可能エネルギーです。夏は冷房、冬は暖房や融雪などに活用でき、空気を熱源とする一般的な設備より効率的にエネルギーを使える可能性があります。

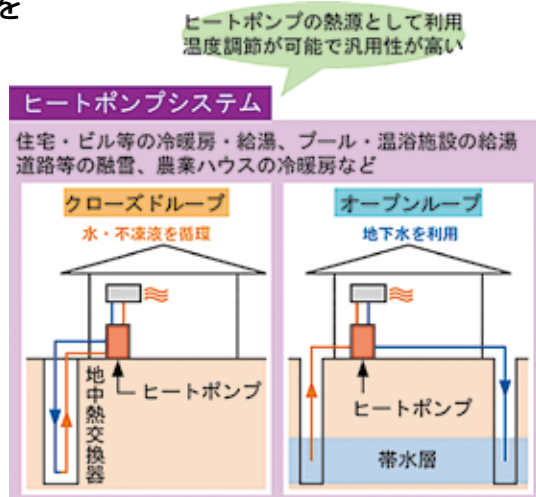
今年度の事業

今回の調査では、地中に埋めた配管内の水などを循環させて熱を取り出す「クローズドループ方式」と、地下水をくみ上げて熱を利用する「オープンループ方式」の両方について、導入の可能性や費用、効果、維持管理上の課題を検討します。

当市は豪雪地帯であり、既存の消雪井戸や地下水の状況を把握し、地中熱を有効に使うことができれば、公共施設の省エネルギー化、冬期間の融雪対策、光熱費の抑制、脱炭素化の推進につながることが期待されます。

歳入には、国の「エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費補助金」が充てられます。

今後議会では、調査結果が公共施設だけでなく市民や事業者にも活用できる内容となるか、地下水の保全や地盤への影響に十分配慮されるか、将来の導入費用や維持管理費を含めて実効性のある計画につながるか等の観点を持って事業の推移を確認していきます。



議員永年表彰者

■ 15 年表彰（全国市議会議長会及び北信越市議会議長会）

久保田陽一

長谷川有理

第2回定例会 議決結果 (5月29日から6月22日まで開催)

議案番号等		議 件 名	議決状況	議決結果
条 例	議案第50号	小千谷市税条例の一部を改正する条例の制定	全会一致	原案可決
	議案第51号	小千谷市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定	//	//
	議案第52号	小千谷市介護保険条例の一部を改正する条例の制定	//	//
予 算	議案第53号	令和8年度小千谷市一般会計補正予算（第2号）	//	//
	議案第54号	令和8年度小千谷市水道事業会計補正予算（第1号）	//	//
その他	議案第46号	専決処分（小千谷市税条例の一部を改正する条例）	//	承認
	議案第47号	専決処分（小千谷市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）	//	//
	議案第48号	専決処分（令和7年度小千谷市一般会計補正予算（第13号））	//	//
	議案第49号	専決処分（令和8年度小千谷市一般会計補正予算（第1号））	//	//
	議案第55号	契約の締結（東小千谷体育センター他2棟解体工事）	//	原案可決
	議案第56号	財産の取得（情報端末機器（PC））	//	//
	議案第57号	財産の取得（除雪ドーザ）	//	//
	議案第58号	財産の取得（救助工作車Ⅱ型）	//	//
	議案第59号	小千谷市監査委員の選任（小杉正一）	//	同意
	議案第60号	小千谷市固定資産評価審査委員会委員の選任（横山美穂）	//	//
	議案第61号 ～第79号	小千谷市農業委員会委員の任命 （風巻和子、小田嶋松治、上田寛之、小泉憲一、金崎優、安達裕子、磯部正行、和田重信、横山博行、村山幸司、池田茂生、品田勇輝、青柳利一、保科学、藤巻政一、岡村忠栄、和田徹、横田雅夫、南雲真智子）	//	//
	議案第80号	契約の締結（川井大橋橋梁修繕工事）	//	原案可決
	議案第81号	小千谷市監査委員の選任（渡辺浩行） ※小杉監査委員が辞任のため	//	同意

常任委員会報告

総務文教委員会

委員長 駒井 和彦

委員会に付託されました議案3件につきまして慎重に審査した結果、全て原案のとおり可決すべきものと決しました。

○議案第50号 小千谷市税条例の一部を改正する条例の制定

質議 特定暗号資産譲渡所得等に関する税制改正による、税システムへの影響について。

○議案第51号 小千谷市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定

質議 改修特別特定建築物の対象範囲と、都市計画税を減額する特例率についてなど。

○議案第53号 令和8年度小千谷市一般会計補正予算（第2号）

質議 再生可能エネルギー促進に向けた今後の取り組みについて、ふれあいの里防護柵の修繕方法についてなど。

民生産業委員会

委員長 住安 康一

委員会に付託されました議案2件につきまして、慎重に審査した結果、全て原案のとおり可決すべきものと決しました。

○議案第52号 小千谷市介護保険条例の一部を改正する条例の制定

質議 非課税者に対する保険料の減免対象者数について、給与所得控除変更による所得段階の変更及び高所得者への影響について、減免による保険料収入への影響について、事務処理の負担について、納入義務者への周知についてなど。

○議案第54号 令和8年度小千谷市水道事業会計補正予算（第1号）

質議 推進工法と水管橋との工事費の差異について、当初予算に上程しなかった経緯及び河川占用許可の流れについて、当初工法と新たな推進工法の具体的な違いについて。



市政に対する 一般質問

各議員の顔写真の下に二次元コードを掲載しています。
スマートフォンやタブレット端末で読み取ると、
各議員の一般質問の録画中継をご覧ください。

内山 博志 議員



会計年度任用職員の待遇改善、 地元企業雇用促進について

質問

市の人口減少は5年前に比べ7・8%減だ。非正規雇用が増えその8割が女性といわれる。地元で暮らせる職場が必要だ。女性の市外への流出も少子化にかかわっていると考える。役所も会計年度任用職員（非正規）が4割を超えている。近年一時金支給など改善がされてきているが平均年収は正職員の半分以上だ。新潟市の人事委員会の調査では、「常勤職員と業務に大きな違いが見られない、専門性が非常に高い職種（保育士等）に一律加算上限は疑義あり」とした。同一労働同一賃金の観点からも当市も改善すべき。待遇改善は地域経済にも好循環をもたらす。また、体力の弱い地元中小企業への就職を促す支援を考えてもいいのではないか。

答弁

会計年度任用職員は、大切

な役割を担っている。質問にある給与表、一時金見直し、専門職の処遇を含め取り組んでいく。

市民の移動手段を保障するために

質問

AIオンデマンド交通「イコテ」の範囲拡大は。エリア外の高齢者などには、タクシー券など検討しては。



答弁

「イコテ」は、随時改善し、一年間ほどデータを収集し、運行方針を決める。タクシー券などについては免許返納後の疑似体験事業の結果を踏まえ検討する。

ホルムズ海峡封鎖による物価高騰、 資材不足の対応について

質問

各分野への支援が必要ではないか。市の施策を進めるためにも受付期間の変更など必要ではないか。

答弁

リフォーム事業に大幅な遅れ、中断が確認された。工事変更を認める通知を出した。国、県の動向を踏まえ検討する。

久保田陽一 議員



中越震災復興記念祭の成果と今後の持続可能な観光・経済について

質問 中越震災復興記念祭が果たした役割と成果、課題は。

答弁 復興記念祭は震災を経験していない若い世代へ経験と教訓をつなげることも目的としており、今後の災害対応の拠点となるスポーツコミュニティプレイス「ソコラテ」の完成見学会や「ホントカ。」での防災イベントなどを実施し、防災への意識向上につながったものと考ええる。また、ブルーインパルス展示飛行のリトライに際し、市民一人ひとりが自発的に復興支援への感謝を表した「ブルーフラッグ大作戦」を通じて、市民の心が一つとなり、ふるさと小千谷への誇りや愛着、いわゆるシビックプライドが醸成されたことが大きな成果であったと考えている。復興記念祭の成果を一過性のものとして終わらせることなく、

「挑戦を応援するまち、再挑戦をもっと応援するまち」という価値を、今後のまちづくりにどういかしていくかが、これからの課題である。

質問 展示飛行終了後のSNS等の反応や小千谷市にどのような声が寄せられたのか。

答弁 SNSでの反応を確認したところ、好意的な内容が多数を占めており、「展示飛行に感動した」「市民に希望を与えてくれた」「ありがとう」などの声が多く投稿されていた。一方で、市内の道路や駐車場の渋滞、仮設トイレの不足、JR小千谷駅及び長岡駅での混雑状況などに関する意見が投稿されていた。また、市ホームページに寄せられたメッセージは85件であり、そのうちの80件が好意的な内容であった。

質問 市外・県外からの来訪者のビッグデータを解析した観光や経済への活用は。

答弁 現時点で関連経費は計上していないが、他自治体の事例を参考にしながら、活用の可能性を含めて研究していきたい。

田中 淳 議員



電源三法改正について

質問 法改正に向けての全国的な動きについて。

答弁 原子力発電所等が立地する14道県が加入する原子力発電関係団体協議会があり、毎年春と秋に国に対して要望を行っていることから、電源三法交付金制度の見直しについては、国に対し全国的に要望活動が行われているものと認識している。

質問 特定事業にかかる国の補助や地方債への交付税措置は本年度予算には盛り込まれているのか。

答弁 令和8年度当初予算には、特措法に基づく特定事業に関する歳出予算は計上されていない。今後、該当となる事業を実施する場合には、補助金や起債などの制度の活用を含めて検討していく。

農作物の渇水対策と農業振興策について

質問 消雪井戸の農業用水利用に

ついでの状態は。

答弁 対象となる消雪井戸については、渇水リスクが比較的高い南部地域を中心に選定し、市内3ヶ所の消雪井戸の分岐バルブの工事発注をしたところです。

質問 新たな水源確保で簡易井戸設置などに対して、市の負担割合の考えをお聞かせ願います。

答弁 市としては、農業者の負担軽減と事業推進が図られるよう、応分の負担を行う考えであり、事業効果や受益範囲、地域の負担能力などを総合的に勘案し、具体的な負担割合を含めた支援の検討をする予定です。

質問 デジタル土壌分布図の活用はされているのかお聞きます。

答弁 現時点ではデジタル土壌図を活用した営農指導や事業展開には至っていないが、スマート農業の推進や気象変動への適応に向けては、有効な手段の一つであると考えている。今後は、関係機関との情報共有を図りながら、デジタル土壌図の活用事例や効果について調査し、活用の可能性について取組んでまいりたい。

佐藤 勝義 議員



未来づくりアンバサダーの現状と今後について

質問 市民が「わたしの一步」として取り組んだ活動事例数と、まちの未来づくりに向けた市民のアイデアを取り入れ検討したいものはありましたか。

答弁 市民からは38件の報告が寄せられており、中でもふるさと納税の紹介に関する提案については寄付金拡大事業を検討する際の参考とさせていただきたい。

質問 子ども達が自ら創り出すイベントなどを応援できる、市民協働支援補助金のような事業を未来づくりアンバサダーに紐づける形として研究をしてみてもどうか。

答弁 未来づくりアンバサダーをきっかけに、皆様に本助成金の活用を検討していただきたい。

質問 「未来づくりアンバサダー企業団体登録」の働きかけを、新たに検討してみてもどうか。

答弁 企業や団体としての登録については、今後の活動状況やアンバサダー制度の浸透状況をみながら研究してまいります。

質問 アンバサダーバッジの作成と、そのデザインを市民から募集してはどうか。

答弁 市民にデザインを公募したうえで、のバッジ作成は、アンバサダーの活動意欲向上に資する一案と考えますが、まずは既存の名刺型の参加証を有効活用いただけるよう、周知してまいります。

質問 市民団体が企画するイベントにおいて、駐車場問題があります。シャトルバスの運行利用も選択肢とできる「シャトルバス補助金」などを検討してみてもどうか。

答弁 シャトルバスに係る補助金を新設する考えはありませんが、市民協働支援補助金など、既存制度を活用いただける場合がありますのでご相談いただきたいと思います。



未来づくりイベントの幟旗

住安 康一 議員



子育て環境の充実について

質問 5歳児健診を実施すべきと考えが見解は。

答弁 当市では現在、5歳児健診の実施に向け、小児の発達障害を専門とする小児科医を含めた関係機関と検討を開始した。先行自治体の事例等を参考にしながら課題の整理を進め、令和9年度からの実施を視野に準備を進める。

質問 自ら望む検査だとしても、先天性心疾患の早期発見のための胎児心エコー検査に補助をすべき。

答弁 妊婦健診において、一般的な超音波検査を実施し、胎児の成長状況や異常の有無を確認している。疾患が疑われる場合には、より専門的な医療機関を受診してもらう体制となっている。胎児心疾患の疑いなど医学的な必要性が認められた場合には、胎児心エコー検査は保険適用となり、その際自己負担分についても妊産婦医療費助成制度により市が全額を助成している。情報収集に努める。

冷水器の設置について

質問 公共施設、特にクーリングシェルターには冷水器の設置、できればボトル給水型冷水器の設置が必要ではないか。見解を伺う。

答弁 クーリングシェルターへの冷水器設置については、マイボトル等を持参してもらうことを基本としていること、施設によっては飲料用自動販売機を設置していること、また、冷水器を設置する場合には、衛生管理や定期的な保守点検、機器更新などの維持管理経費が必要となることに加え、国が示すクーリングシェルター指定要件においても冷水器などの設置は求められていないことから、現時点で新たに設置する考えはない。

質問 学校施設への冷水器設置について。

教育長答弁 各家庭に水筒の持参による対応をお願いしている。冷水器は後援会、PTAなどからの寄贈や、生徒会活動費による購入などであり、市立学校15校中7校に設置。それぞれの学校において判断されるものと考えている。

平澤 智議員



西脇順三郎賞について

質問 募集方法、表彰方法に課題はなかったのか。

答弁 今年度は第5回詩集部門と詩篇部門を統合して実施することとし応募作品数の増加に伴い、審査員が短期間に多くの作品を審査する負担の軽減を目指した。近年は新人であっても詩集を発表しやすい環境が整いつつあると考えています。

質問 今後更に活況を呈するコンクールとなることを祈念するが見解は。

答弁 本賞は現代詩の世界において一定の評価を得てきているものと考えている。また、市民憲章に謳われている「文化の香り豊かなまちに。」を実現するうえでも、本賞は重要な役割を果たしているものと認識している。今後も関係団体等と連携して対応していきま

スポットワーク制度の実現可能性について

質問 これまで短時間を想定したマッチングプラットフォーム等の導入は難しいとのことであったが、現状はどうなのか。

答弁 短期農作業マッチングアプリの導入につきましては、近年、働き方の多様化が進む中、人手不足の解消や多様な就業機会の創出につながる取組の一つとして認識しており、本年4月から「1日農業バイトアプリ『デイワーク』」の運用を開始しました。

質問 スポットワークに関しては、信用のおける組織が仲介役になれば円滑に進む要素となるのでは。

答弁 信用のおける組織が仲介役になることは、求人側にとって安心感や信頼感につながる要素の一つであると考えている。一方で、求人側と求職側双方の利用が広がり、継続的にマッチングが行われる仕組みを構築していくことも重要である。そのためには、利用しやすい環境づくりや制度の周知を進めることが必要であると考えています。

駒井 和彦議員



市長の政治姿勢と2期目出馬の是非について

質問 これまでの1期4年間の成果と残された課題について、どのように総括されるのか。そして今年11月の市長選挙に出馬されるのか。

答弁 市長就任以来、市民総参加を掲げ市民の皆様との対話を大切にしなが、まちづくりに取り組んできた。ずっと住まいる応援事業、おぢやごころ奨学金返還支援事業などのU・イターン支援、起業家育成支援事業の実施、学びの多様化学校の開校、防災対策や地域医療の確保など、市民生活に直結する様々な施策に取り組み、着実に前進を図る事ができたものと考えている。一方で人口減少対策をはじめ、電源三法交付金制度の不均衡是正、TDK(株)進出を契機とした新たなまちづくり、GX戦略地域の実現、小千谷総合病院をはじめとする厚生連の再生支援、茶郷

川放水路事業など、当市の将来に大きく関わる大変重要な課題も残されている。しかるべきタイミングで4年間の総括したい。2期目出馬の是非については、選挙に関する個人の判断であり、市政運営に関する答弁とは性質を異にするものと認識している。従って現時点でこの場で出馬の是非を申し上げることは控える。

第6次小千谷市総合計画「おぢや未来ビジョン」の策定と起業家育成支援事業の運動について

質問 起業家育成支援事業において採択、或いは今後生まれるビジネスモデルが、当市の抱えるリアルな課題の解決にどう寄与するか。

答弁 令和7年度ビジネスコンテストで採択された事業の中に、除雪機の自動運転等の雪害関係技術の開発や、伝統産業の販路拡大等、当市が抱える地域課題の解決に繋がる可能性をもつ事業も含まれている。当市として起業家の自由な発想、挑戦への意欲を尊重し、事業実現のサポートを基本としているが、この中から新たな雇用や地域活力が生まれることを期待する。

佐藤 隆一 議員



小千谷市の未来像について

質問 環境田園都市としての小千谷市の未来像について考え方を共有できますか。

答弁 小千谷市は、子育て支援の整備や雇用創出でＵＩターンの推進、空き家の活用、みんなで地域医療を守るなどの課題に取り組んでいます。特定の人だけが頑張るのではなく、それぞれの頑張りで未来を開く市民総参加のまちづくりに取り組んでいます。

質問 小千谷市は、リサイクル資源の買い入れ価格の引き下げを行いました。人口減少が進む中でもゴミの排出量が近年増加しています。

答弁 市民団体の価格は変わらずこれまで通り5円の奨励金を交付しています。事業者の価格は年2回見直しており、直近では1kg当たり2円となっています。

質問 リサイクルの低迷が続いて

いますが、具体的な解決策を聞きます。

答弁 小千谷市のリサイクル率は平成26年度の20・8%から令和6年度には15・1%に低下しています。また、リサイクル量は、10年間でマイナス1011トン、率にして34%減少していますが、このうち紙類の減少が705トンと全体の7割を占めています。この他、ガラス類や金属類も減少しております。

リサイクル率の低迷などの課題がありつつも市民参加を進めることによって、課題の克服を目指して行きます。

質問 小千谷市は再エネ資源に恵まれ、活用次第では、トップランナーとして期待されるのではないのでしょうか。

答弁 J-R発電所の発電にかかわる電気が完全に再エネ由来の電気に切り替わりました。太陽光パネルはもちろ

ん、地中熱などの地域資源を活用しながら普及に努めて行きます。



廣井 良宣 議員



橋梁の修繕について

質問 国は2014年度から道路施設の管理者に対し5年に一度の点検を義務付けた。損傷の度合い

はⅠ健全、Ⅱ予防保全段階、Ⅲ早期措置段階、Ⅳ緊急措置段階の4区分。ⅢとⅣは5年後の次回点検までに修繕などに着手するよう促している。現在当市ではⅢが15カ所、Ⅳが1カ所とのことだが、修繕計画に対する実施の見通しは。

答弁 現在市が管理する市道の橋梁は177橋あり、Ⅲは既に9橋の修繕工事が完了。残りも優先順位を定め、順次修繕工事を実施していく。また、Ⅳは安全確保のため現在通行止めとしている。今後

も計画的かつ着実に進めていく。**質問** 旭橋は県管理だが、令和元年の台風19号による信濃川の増水では観測史上最高水位を記録し、竣工から50年以上の経過にも市民が不安を抱いた。直近の定期点検

結果について県と情報共有は。また、通行規制の場合は市としての影響評価や代替ルートの検討は。

答弁 旭橋はⅢと判定されており、県と情報共有をしている。市として独自の交通影響評価はないが、過去の通行規制時の状況等を踏まえ、山本山大橋及び小千谷大橋を主要な代替ルートと想定している。**がん検診歴の把握について**

質問 厚生労働省では住民のがん検診の受診歴を市町村が把握する仕組みを今年4月以降導入する。職域検診でのがん検診情報が自治体に届かない状況をどう認識しているのか。がん情報の一元化という観点から医師会や企業に対し、情報連携を進めていく必要は。

答弁 市のがん検診の受診歴や検診結果は把握しているが、職域検診の情報は直接把握する仕組みはない。市民全体の把握が難しく、健康課題の分析での課題の一つ。がん情報の一元化は有効だと認識だが、個人情報保護の観点から、

直接収集・共有に課題がある。**質問** 本人同意をどう進めるのか。

答弁 最新の情報を集め、タイムリ

和田 忠篤 議員



おぢや未来ビジョン2026s
2035「おぢやの想い」について

質問 今回の基本構想において、これまでのまちづくりの中で、最も見直す必要がある点は何か伺う。

答弁 最も見直す必要がある点は、行政、市民、企業などが連携しながらまちづくりに取り組む関係性であり、人口減少という構造的な課題に対して、地域全体で当事者意識を持ちながら取り組む体制へ転換していくことであると考えています。

質問 目指すまちの姿に掲げる、様々なつながりの中で、当市として、最も課題が大きいと見えているつながりは何か伺う。

答弁 当市が最も課題が大きいと見えているつながりは、「10代から20代の若い世代と、ふるさと小千谷との心理的なつながりの希薄化」です。大学などへの進学により一度地元を離れることはやむを得ない面もありますが、大切なのは、離れた後もふるさとを思い出し、「いつか小千谷に戻りたい、市外にいてもふるさとに貢献したい」と思える心のつながりを育むとともに、ふるさとに戻りやすい環境を整備することです。小・中学校からのふるさと学習やSNS等を活用した魅力発信を通じ、物理的な距離を超えた郷土愛の醸成を図ります。

質問 転入・転出の理由として「職業」が多いことを踏まえたうえで、職業以外に特に重く見ている課題は何か伺う。

答弁 職業以外で特に重く見ている課題は、「雪国特有の生活の不便さの解消」です。全年齢を対象とした市民意向調査でも、「暮らしやすい雪国生活の推進」が重点的に取り組むべきテーマとして最も多く回答されています。そのため、冬期間の除雪体制の維持・確保に取り組みとともに、GX戦略の強みに変え、雪国ならではの価値の創造につなげることで、若い世代から選ばれる雪国の実現を目指してまいります。

森本恵理子 議員



市政運営について

質問 市長の任期も残り数か月となりました。本市は人口減少や地域医療、公共施設の老朽化、地域コミュニティの維持など多くの課題を抱え、次の4年間は単なる現状維持ではなく、小千谷市の将来そのものを左右する極めて重要な期間になると感じています。そこで、市長は1期4年間の市政運営をどのように総括し、今後どのような課題を重視して市政運営に取り組んでいく考えか伺います。

答弁 起業創業、子育て、教育、防災、地域医療確保などで一定の前進があった一方で、人口減少対策、企業誘致、税収確保など多くの課題があり、未来づくりに向けた責任を果たしていきます。

歴史文化資源の保存と活用について

質問 人口減少が進む中、小千谷にしかない歴史や文化、それに

よって育まれてきた小千谷らしさを守り、未来へつないでいくことは、まちづくりや郷土への誇りを育む上でも重要と考えます。埋蔵文化財の価値や、歴史資料の保存・活用について伺います。

答弁 文化財保存活用地域計画の策定を進め、小千谷市史などの資料についても検索・閲覧しやすい形で公開を進めるほか、調査・保存・活用に取り組んでいきます。

質問 小千谷がこれからも小千谷であり続けるために、何をつなぎ、何を引き継いでいくのか。その視点からも西軍墓地は、敵味方を分け隔てなく弔い続けてきた小千谷の人々の精神性を伝える場所の一つです。今後どのように保存、整備、継承していくのか伺います。

答弁 史跡や文化財の価値を市民と共有し、展示や講座などを通じて情報発信を進めていきます。

質問 西軍墓地ゆかりの地の方々にもっと存在を働きかけることが必要と考えますが見解を伺います。

答弁 西軍墓地は小千谷の利他の精神を象徴する大切な場所と捉えています。交流や支援のあり方についても今後検討してまいります。

TOPIC #2

6月27日 ソコラテ竣工式

防災公園にスポーツコミュニティプレイス「ソコラテ」がオープン

「ソコラテ」は、平常時はスポーツを中心に人々が集う地域の活動拠点として、災害時には避難所をはじめ、支援物資の集配や炊き出し、ボランティア等の防災・減災拠点として、複合的な機能を併せもつ公共施設です。竣工式では、小千谷市議会も含め関係者、市民が多数参列のもと、完成を祝い、市民に愛される施設となることを祈念してテープカットが行われました。



本会議をインターネット中継しています

市議会ホームページからインターネットライブ中継でご覧いただけます。

本会議当日のライブ中継のほか、録画映像も配信しています。

また、会議録も市議会ホームページで閲覧できます。

(令和8年第2回定例会の会議録掲載は、8月末頃となります。)

URL <https://www.city.ojiya.niigata.jp/site/gikai/>

小千谷市議会

検索

市議会を傍聴してみませんか

第3回定例会開催予定

8月28日(金) 第1日 議案上程説明

8月31日(月)～9月3日(木) 各常任委員会で審査

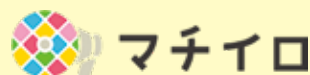
9月16日(水) 第2日 一般質問

9月17日(木) 予備日 一般質問質問者が多い場合に開催)

9月24日(木) 最終日 委員長報告、採決

※日程は変更される場合があります。各委員会の日程、団体での議会傍聴については

議会事務局 (TEL 83-3505)へお問い合わせください。



マチを好きになるアプリ

市議会だよりを
アプリで配信中

スマートフォンやタブレット端末で使える無料アプリ「マチイロ」で配信中です。ぜひご利用ください。

Android用



iPhone用



編集後記

・令和8年度の様々な施策が動き出しています。おちや来ビジョンもスタートし、本年度は「希望の芽」が育ち、好循環が回り出す年にしていきたいものです。

・ブルーインパルスが4月19日に小千谷にやってきました。日。諦めないでリトライを宣言し挑戦。市内外から約10万人が訪れ、大きな感動に包まれました。多くの方には小千谷を知ってもらえたことは大収穫であり、ブルーインパルスの集客力および経済効果は想像以上ですごく、驚かされました。

・6月27日スポーツコミュニティプレイス「ソコラテ」がオープン。平常時はスポーツや生涯学習に、災害時には避難所や支援物資集配所などの機能を持ちます。「そなえ館」も移設され、素晴らしい複合施設となることでしょう。

・6月議会では、物価高騰対策、中越地震復興記念祭、電源三法改正、猛暑対策、ごみ処理事業など、多岐にわたる議論が繰り広げられ、有意義な議会となりました。

編集委員 住安 康一